



春の交通安全



小諸市入庁式



一般会計1兆1606億円

2001年度以来の1兆円超え

確かな暮らしを守り、より豊かで安全な信州へ
国の予算を最大限に活用し、新型コロナウイルス対策を最優先

【令和2年度2月補正予算の編成に当たって】

- 県内事業者がコロナ禍であっても持続的に事業活動ができるよう、低感染リスク型のビジネス展開等を支援。
- 感染状況を踏まえつつ、飲食店等のサービス業や観光業を支援する需要喚起策を実施。
- 激甚化・頻発化する災害や社会インフラの老朽化等から県民の生命と財産を守るため、流域治水対策や道路・河川等の老朽化対策を集中的に実施。

【令和3年度当初予算の編成に当たって】

- 新型コロナウイルスから県民の命や健康を守り抜くため、必要な検査・医療・福祉提供体制を確保。生活に困窮する方を始めとする県民の暮らしを支え、良質な雇用を確保し、産業を支え抜くことに全力を尽くす。
- 信州リゾートネットワーク、IT産業の集積に向けた信州ITバレー構想の推進、長野県DX戦略を具体化し、将来に向けた投資にも積極的に取り組んでいく。
- 激甚化・頻発化する災害の要因である気候変動に対して、県民一丸となって「2050ゼロカーボン」に取り組んでいく。

2月定例会

一般質問(抜粋)

コロナ禍の観光振興について

【山岸】コロナ後を見据え、観光の再生に不可欠なインバウンド復活に向けて、どのように取組を進めていくのか。

【観光部長】インバウンドの復活がまだ先になる中で、観光客の入れ込みが期待できるイベント等が県内で開催されます。このチャンスに最大限、国内誘客に活かし、インバウンドにもつなげていく。県立美術館開館、夏の「北アルプス国際芸術祭」、春の飯田お練り祭や善光寺御開帳、御柱祭、穂高

神社式年遷宮祭など今年夏頃から県内周遊旅行商品の造成や、首都圏の主要駅における観光PR、メディア媒体の活用などに取り組む。

地域発元気づくり支援金について

【山岸】「2050ゼロカーボンに向けた取組の推進」と「地域防災力の向上」の周知を含め、その取組は?

【企画振興部長】募集期間を一般の事業より1か月間延長。新たな試みとして、2050ゼロカーボンに向けて、支援金を活用した全ての事業において、ペットボトル飲料をマイボトルに置き換え、燃やすゴミを減らすなど、環境にやさしい「プラスワンアクション」に取り組んでいただく。こうした取組により、県民が自ら考え、課題解決のため協働して行動する「学びと自治の力」を発揮するきっかけづくりをしていただきたい。

高校再編について

【山岸】小諸高校音楽科の評価は?

【教育長】海外への音楽研修や、国内の各種コンクールでの活躍等の実績を積み重ねることにより、音楽を通じて、豊かな感性を備えた調和のとれた人間形成がなされ、社会で活躍できる人材が輩出されている学科であると評価している。

【山岸】小諸商業高校と小諸高校の再編によって、どのような学校を目指していくのか。

【教育長】地域の活力を生み出す学校として、「地域と協働した学び」や「学科を越えた学び」をさらに深めるべきとの提案もいただいている。こうした地域協議会からの提案も踏まえ、統合新校のイメージとして、「普通科・音楽科・商業科」の学びを融合させ、地域連携による探求学習を進め、「地域や日本のイノベーションを創出する力を育む学びの場」の構築、母体となる高校が築いてきた地域との繋がりや地域資源を最

大限活用した「地域活性化の拠点となる高校」を例示させていただいている。

浅間山の防災・減災について

【山岸】蛇掘川など浅間山における融雪型火山泥流に備えた砂防施設整備計画の全体規模、完成予定時期について伺う。

【建設部長】国土交通省では長野・群馬両県と共に、1958年の噴火相当規模を対象とした「浅間山火山噴火緊急減災対策砂防計画」を、平成23年度にとりまとめ、平成24年度から直轄火山砂防事業を実施しています。群馬県側も含めた全体事業費は約250億円、現在の進捗は概ね5割、令和8年度の事業完了を目指している。蛇掘川を含む8溪流において、砂防堰堤の整備や、有事に備えたコンクリートブロックの製作・備蓄などの対策を進めている。浅間山では、一刻も早い対策の完了が待たれる状況であり、更なる事業の推進に向け連携を強化していく。

【山岸】広範囲な知識と高度な技術を有する火山研究者の育成と、専門性を身につけた人材の確保が求められると考える。

【危機管理部長】火山研究者の育成や専門性を身につけた人材の確保を、充実・強化する必要があると認識し、育成や確保について国に対して要望している。国は、火山研究者の育成を目的とする「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」に取り組んでいる。

【山岸】県境を越えて広範囲に被害が及ぶ大規模噴火の恐れもある中、国、市町村との連携強化は?

【危機管理部長】本県には、7つの常時観測火山が存在・隣接。常日頃から、国、県、市町村、関係機関で、県境を越えた連携を行っている。特に浅間山では、広域に影響が及ぶ大規模噴火を経験しており、浅間山火山防災協議会では、広域避難計画の検討を、現在進めているところです。広域避難計画策定に当たっては、市町村区域を越えた避難も想定、周辺自治体を含め、幅広い範囲の関係機関との調整等が必要であると認識。



令和2年度小諸ふるさと遺産認定証交付式

かぜ 浅間の旋風

元気!やる気!!よしあき!!!

発行責任者：山岸喜昭
〒384-0022 長野県小諸市南町3丁目9番地19 TEL0267-24-2310 FAX0267-24-2320
<http://www.asamakaze.com> E-mail yamagishi@ctknet.ne.jp



小諸市議会正副議長と県議会議長へ就任あいさつ

国への意見書提出

県議会では以下の意見書を提出しました

- 日本人拉致問題の早期解決を求める意見書
- 国土保全の取組の更なる推進を求める意見書
- 国産木材の需要拡大に向けた更なる取組を求める意見書
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける事業者に対する支援の拡大を求める意見書
- 自殺防止対策の拡充を求める意見書
- 新たな感染症の発生に備えた地域医療・介護制度の実現を求める意見書

農政林務委員会での質疑(抜粋)

「山岸」現在の国と県の自給率は?
 「農業政策課長」国のカローリーベースの自給率は、令和元年度は38%。長野県の自給率は53%で、前年度とほぼ同水準。目標として、国は平成30年度の37%を令和12年度までに45%まで上げることとしている。

「山岸」コロナ禍の影響等で需要が減少した米の適正生産推進のため、麦・大豆等への転換に支援を行うとするが、米農家が慣れ親しんだ稲作から転換を進んで行か?
 「農業技術課長」米の需要が非常に厳しい状況の中で、適正生産に向けて、生産量の目安値の提示等、例年よりも早く取組をしている。国においても、他作物への転換を推進するため、水田リノベーション事業等について予算措置をしている。一方で、他作物への転換が思うように進まない



いことも事実として認識している。野菜等の高収益作物への転換については複合経営という視点も盛り込み導入を図っていききたい。

「山岸」森林環境税の活用が計画されているが、市町村においては、林務課、専門職員などの体制は整っているか?また、森林環境譲与税事業は活用されているか?
 「森林政策課長」県内市町村の林務行政に携わる体制について、平成30年4月時点で林務単独の課があるのが3市、林務単独の係があるのが21市町村、林務行政を兼務で対応しているのが53市町村。市町村において専門人材の不足が大きな課題となっている中、森林経営管理制度の推進にあたり、県としてできるだけ広域単位で進めるよう働きかけをしたい。森林環境譲与税事業は基金残高令和元年度に金額ベースで75%あったが、令和2年度には50%弱ということで活用事例が増えてきていると認識している。

「山岸」外国資本による森林の取得は、市町村への届出を毎年調査し、林地台帳で把握しているとのことだが、現在、所有者不明、名義変更がされていない山林がどのくらいあるか?
 「森林政策課長」森林簿上、所有者不明の森林が約4%、所有者が当該市町村以外に居住しているのが19%で、合計24%程度について所有の実態がつかみにくい森林として認識している。

令和3年度は、危機管理建設委員会と決算特別委員会に所属します

自民党県議団政務調査会 現地調査

〈小諸市・東御市・上田市〉
 2月12日、小諸市役所で市より「新型コロナウイルス感染症等に関する要望書」の他、小諸市複合型中心拠点誘導施設「こもテラス」の概要説明、布引トンネル前後の道路整備要望を受けました。東御市では、御堂ワイン畑の状況、上田市では、新庁舎にて要望を受けた後、別所線橋梁視察を行いました。



青木村長 北村氏と



小諸市庁にて



佐久穂町視察



〈佐久市・立科町・佐久穂町・小海町・北相木村・南相木村・川上村〉
 2月10日、佐久地域における災害復旧、河川護岸整備、道路築造、防災ダム整備など現地調査を行いました。

事業の再構築に挑戦する皆様へ

新分野展開や業態転換等を目指す方へ「中小企業経営構造転換促進事業補助金」の申請受付が始まっています。対象条件他詳しくは、佐久地方振興局 商工観光課へお問い合わせください。

電話 0267-633-3158

4月10日「オープン記念として」東京藝術大学スーパークロウン文化財展・新美術館でよみがえる世界の至宝」開催

新築された本館は、地下1階、地上3階。2階はメインの展示室と善光寺を望めるテラス付カフェを併設。地下は県民ギャラリーや多目的スペース。1階は展示室の他、ミュージアムショップや交流スペース。3階は屋上広場。国宝などを展示できる機能を持ちながら、入場料不要で散歩ができるスペースもある。併設の東山魁夷館は2019年にオープンしている。

県立美術館「本館」4月10日リニューアルオープン

新美術館イメージ・プランツアソシエイツ